

編集 後記

第61巻第2号は、原著1編、研究ノート1編、資料2編を掲載しています。原著は、個人レベルのソーシャル・キャピタルと高齢者の主観的健康観・抑うつとの関連を男女別にみたものです。研究ノートは、仮設住宅に居住する東日本大震災被災者の身体活動量の変化を記述したものです。資料は、病院に勤務する小児科医を対象に障害児への障害福祉サービス紹介の実態を調査したものと、食品汚染防止のチェックリストをもとに食品防衛対策のガイドラインを検討したものです。いつものことながら本号も公衆衛生の分野の広さを感じさせる内容となっています。

さて先日、学術雑誌の出版倫理に関するセミナーに出席する機会がありました。日本公衆衛生雑誌では、投稿規定において倫理的配慮や倫理審査委員会の名称および承認年月日を記載するよう求めています。出版倫理とは、研究の計画から実施、解析、報告・出版まで、つまり投稿者、査読者、編集者、出版者など論文に関わるすべての人々を対象とするものです。主要な不正行為としては、ねつ造、改ざん、剽窃がありますが、改ざんやねつ造は研究の質と深く関連しており、編集者が予防、発見することは困難とされています。また論文の投稿では、誰が共著者になるかというのも出版倫理における悩ましい問題です。今後、当編集委員会でも出版倫理について情報収集を進め、取り組んでいく必要性を感じました。

(西 信雄)

次号予告 (第61巻・第3号)

原著

都市部在住の乳幼児を持つ母親の孤独感に関連する要因
乳幼児の年齢集団別の検討……………佐藤美樹, 他

研究ノート

某ファミリーレストラングループにおける客席禁煙化前後の営業収入の相対変化
未改装店, 分煙店の相対変化との比較
……………大和 浩, 他

資料

東京都における2011年麻しんの流行状況
発生動向調査の分析より……………灘岡陽子, 他

オンライン投稿審査システム導入のお知らせ

本誌では2014年4月1日から新しくオンライン投稿審査システム (ScholarOne Manuscripts) を導入する予定で準備を進めております。

2014年4月1日からの本運用に先立ち2014年1月から3月までを移行 (準備) 期間とし、この間に投稿いただきました論文につきましてもシステム上で審査を行ってまいります。

郵送での投稿論文については、原則として2014年3月31日をもって受付を終了させていただきます。

なお、システム導入以前に投稿された論文については、審査結果が確定するまで従来の方式で進めてまいります。

現在、本運用に向けて投稿規定を整備している最中ですので、正式なものが整いましたら別途あらためてご案内申し上げます。

何卒ご理解、協力くださいますようお願い申し上げます。

会員の皆様からのたくさんのご投稿をお待ち申し上げます。

日本公衆衛生雑誌編集委員会
委員長 田宮菜奈子